

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2019年4月1日

【2019年3月23日～2019年3月29日までの推移】

【1】先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円では上昇、対米ドルでは下落しました。また、2年国債金利は一週間を通して見ると横ばいでした。先週のブラジル金融市場は、年金改革の不透明感が高まっていたことから大荒れとなりましたが、年金改革に集中する姿勢が示されたことで、週後半には一旦落ち着きを取り戻しました。

先週半ばまでのブラジル金融市場は、前週に続いてボルソナロ大統領とマイア下院議長の軋轢が嫌気される展開となりました。週前半にブラジル下院が政府の予算管理の権限を弱体化させる憲法改革法案をスピード承認したことで、ボルソナロ大統領の政権運営能力に対する疑念が強まるとともに、マイア下院議長との軋轢が意識され、市場は混乱に陥りました。また、ボルソナロ政権の要であるゲデス経済相が下院憲法司法委員会への出席を見送ったことや、辞任を示唆するような発言をしたことなども嫌気されました。

しかし、週後半にかけて、大幅に遅れていた下院憲法司法委員会での報告者が決定されたことや、ボルソナロ大統領とマイア下院議長が、年金改革の成立に向けて協力する姿勢を改めて示したことから、市場は落ち着きを取り戻しました。また、ゲデス経済相が「本来の重要な役割を忘れることはない。これからは全てが動き出す。」と前向きに語ったことも好感されました。

経済指標に関しては、3月のインフレ率(IPCA-15)などが発表されました。こちらは前月・前年比ともに市場予想を小幅に上回りましたが、材料視されませんでした。

【2】今週の見通し

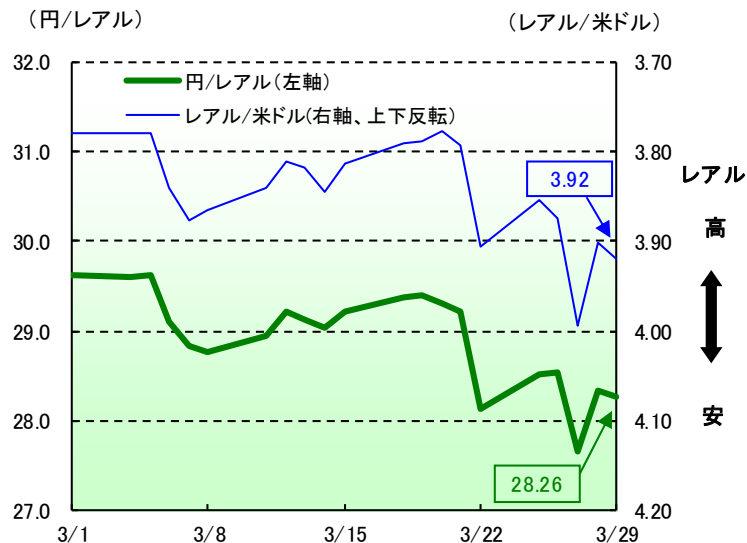
今週は、鉱工業生産や各種PMI(購買担当者指数)などの経済指標の発表が予定されています。

年金改革法案に関しては、3月末頃に予定されていた下院憲法司法委員会での票決が、4月中旬頃まで遅れる見込みです。

足元、ボルソナロ大統領とマイア下院議長の協力関係の回復が好感されていますが、引き続き年金改革に対する楽観論の巻き戻しには注意が必要です。

【ブラジル・レアル 為替推移】

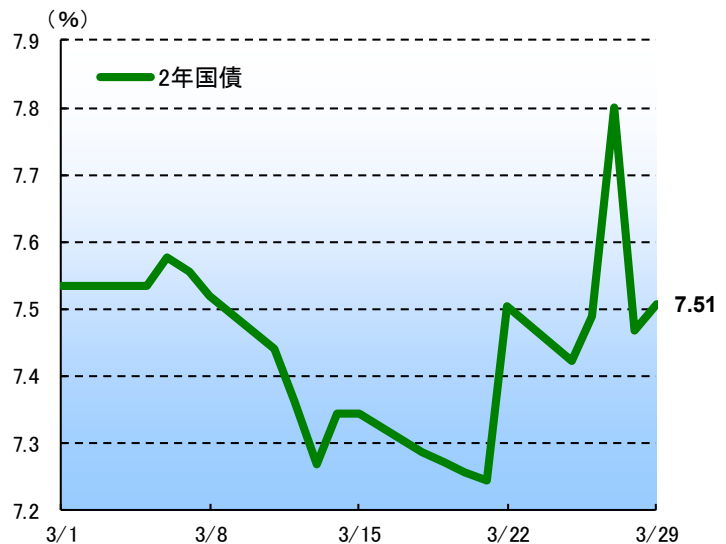
(2019年3月1日～2019年3月29日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2019年3月1日～2019年3月29日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>